

# ふたはの桂

京都府大広報 **No.181** | 2018.3

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY



京都府立大学 京都地域未来創造センター学生ラジオ部会

**KPUKPUラジオ**  
(かぶらじ)

毎月第4日曜日 22:00~22:15 ON AIR

FM79.7MHz 京都三島ラジオカフェより放送

第1回 9/22, 第2回 10/23, 第3回 11/24, 第4回 12/22,  
第5回 1/26, 第6回 2/23, 第7回 3/29

京都府立大学の地域への貢献を応援！

地域貢献活動に取り組む府立大学生たち  
～京都地域未来創造センター学生会「かぶら」と学生ラジオ部会「KPUKPU(かぶらぶ)ラジオ」



## 特集 京都地域未来創造センター … 2

### CONTENTS

地域連携・大学連携 … 4

国際京都学 … 6

和食文化研究 … 7

国際交流 … 7

### 各学部・研究科の取り組み

文学部 … 8

公共政策学部 … 8

生命環境科学研究科 … 9

受賞情報 … 10

退職教員からのメッセージ … 11

ニューフェース … 12

## 特集

### 京都地域未来創造センター

平成29年4月に京都地域未来創造センターを設置して、まもなく1年。京都府立大学では様々な地域貢献・地域連携・産学公連携の取り組みを進めてきました。

#### ■KIRPセミナー（連続自治体特別企画セミナー）

地方自治に関する知識の習得と政策形成能力の向上を図るため、学識者や自治体の実務経験者によるセミナーなどを開催しています。

今年度は、7月にKIRP設立シンポジウム「京都における地域の未来を拓く大学の役割」として、日本学術会議会長の大西隆氏を講師に招き、「今後の科学技術の進展と地域社会—大学は地域との協働でいかに役割を果たすべきか」をテーマに講演いただいた他、計4回のセミナーを開催しました。（シンポジウムやセミナーの内容はホームページに掲載しています。）

#### ■地域貢献型特別研究（ACTR）ポケットセミナー

10月に京都府立京都学・歴彩館で府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献するための地域貢献型特別研究の成果報告会としてポケットセミナーを開催しました。セミナーでは、平成28年度に実施した21件の研究の中から、食など暮らしに身近な5件の研究成果をわかりやすく発表しました。



「資源ごみ収集時における課題の分析と住民主体の解決事例」	公共政策学部 勝山亨 准教授
「丹波黒大豆の規格外品における利用方法の検討」	生命環境科学研究科 松井元子 教授
「“まるごとコウゾカレンダー”の意味すること」	生命環境科学研究科 細矢憲 教授
「京料理の形成」	京都和食文化研究センター 上田純一 特任教授
「精華町における洛いもを利用した地方創生の取り組み」	生命環境科学研究科 伊達修一 講師 及び 精華町産業振興課 塚田寛 課長補佐

#### ■受託研究

府や市町村の依頼を受けた調査・研究による施策提案だけでなく、その後の制度構築や見直しなども行う伴走型の支援をしています。

#### 宇治田原町の定住・移住希望者向け「いいところ」パンフレットを企画・提案 ～公共政策学部の勝山ゼミと連携、中学3年生のグループ学習でも活用～



ゼミ生たちは、町職員や印刷デザイン会社スタッフとの意見交換をはじめ、茶摘み体験や「弘法の井戸」掃除、地元の大学生や高校生を中心に活動する「茶ッピー未来基金」への取材や、「やんたん灯り祭り」の灯ろうづくりなどにも参加。気軽に声をかけてくださる住民の人柄、地域に対する愛着などが感じられたことから、人・都市との距離、コンパクトな地域など、「ちかいつ（近い）」というキーワードが地域の住民にも、移住を検討する人にも伝わるような冊子の企画提案を進めました。

1月には、冊子の完成披露を兼ねて、中学3年生を対象とした「ふるさと学習」にゼミ生も参加。中学生の話し合いや発表のサポートを行いました。

#### （公財）京都市町村振興協会主催の「海外行政調査研究プログラム」を企画・運営 ～市町村の職員12名と米国東海岸へ～

10月に、ニューヨーク、ボルチモア、ワシントンDC、ボストンの各都市を訪問、エリアマネジメント、自然環境保全、廃学校の現代美術館化、災害危機管理、大学・地域の協働システム、港湾地域の再生、広域行政、歴史・文化保全など、多彩なテーマで、NPO団体、スカーズデール村、ニューヨーク市、大学、広域行政団体等々、計12の機関を訪問し、活発な意見交換が行われました。参加された12名の市町村職員の方々には、事前研修も含め、米国の地域政策、都市政策等に触れ、新たな認識を数多く身につけていただくことができました。



## ■学生ラジオ部会「かぶらじ」と学生部会「かごら」

9月から学生ラジオ部会によるラジオ広報「KPUKPU（カプカプ）ラジオ」、通称「かぶらじ」の放送を始めました。本学に興味がある中高生や地域の方向けに、学生の活動や学校行事、研究者へのインタビューなどを紹介するほか、北山エリアのイベント情報を発信するなど、学生の目線で大学や地域のホットな話題を提供しています。（毎月第4金曜日 22時から FM79.7MHZ 京都三条ラジオカフェで放送中）

また、学生部会「かごら」は、周辺地域にお住まいの皆様との交流事業「かごらカフェ」などに取り組んでいますが、8月に福知山市で福知山公立大学の学長や学生と意見交換を行いました。それぞれの大学の活動内容の紹介や中丹地域における両校の連携などについて話し合い、地域貢献活動のレベルアップを図りました。

## 京都地域未来創造センター 産学連携リエゾンオフィス

京都地域未来創造センターの中に開設された「産学連携リエゾンオフィス」では、本学の研究成果を広く社会に発信するとともに、共同研究や受託研究などの産学公連携の取り組みを推進しました。

## ■イノベーション・ジャパン2017に出展

8月末に東京で開催された上記フェアに、生命環境科学研究科 石田昭人教授の研究「SPR 増強加熱DNA伸長法による病原体の迅速その場分析」を出展しました。

当日、会場では企業10社ほどがシーズの説明を求めに来られました。社運を賭けた製品開発につなげようという意気込みで、踏み込んだ説明を求められ、最終的には1社との共同研究実施につながりました。企業の方とのディスカッションは、教員にとっても学生にとっても貴重な経験で、基礎研究を応用へとつないでいくための新しいアイデアの創造や、実用化のためのキーポイントの判明など、研究の進歩につながります。学生にとっては成果をまとめてアピールする訓練となる上に、企業の第一線で活躍する人達から率直なアドバイスや業界事情を聞き、就職への足がかりを作る機会にもなり得ます。

一方で、企業との共同研究を始めると、研究の秘密を守りたい企業の論理と、教育上の観点から学会や卒論等で研究成果を発表したい大学側の思いとの間でジレンマも生じます。また、一定の成果があっても特許がないため、企業の実用化につながらなかった例など、研究以外の部分で解決すべき課題が生じることもあります。産学連携リエゾンオフィスでは、こうした産学連携に係る課題の解決に向けた支援をいっそう強化して参ります。



## ■精華サテライトオフィスについて



4月に設置された精華サテライトオフィスには、9月から産学連携コーディネータ1名を配置し、精華キャンパス教員の産学連携を支援するとともに、「けいはんな学研都市」などの京都府南部エリアを中心とした企業や研究機関と本学をつなぐ役割を担っています。

精華キャンパス内の産学公連携研究拠点施設内の植物工場プロジェクトでは、ビタミン、ミネラル等の健康機能性成分を大幅に増強した野菜「健康野菜・けいはん菜」の栽培技術の研究が進み、昨年度には特許を出願しました。今年度には、この技術を活用したベンチャー企業が起ち上がり、本施設内に試験栽培工場がオープンしました。

## 精華町からの府立大学市町村研修生「京都府立大学での2年間の経験」

京都地域未来創造センター（精華町職員） 河西聖子

平成28年4月から2年間、精華町から京都府立大学に出向して、仕事をさせていただきました。自治体からの受託調査研究、地域貢献や生涯学習に関する事業、KIRPセミナーなど様々な業務に携わり、役場ではじっくり取り組むことが難しい先進事例の研究や視察、データ分析による課題解決に取り組んだり、大学教員や先進的な取組を行う方々との人的ネットワークを作ったりすることができました。

特に印象的だったのは、伊根町若者会議でワークショップの企画・運営と政策提言を行ったことです。地域の方に直接思いを聞き、若手役場職員と話をしたり、町の資源や統計を調査したほか、先進地として島根県海士町に視察も行きました。試行錯誤する中で、知識や分析手法はもちろん、思いを活かす住民主体のまちづくりを考える機会になりました。

またアメリカの自治体等への視察に同行するという貴重な機会にも恵まれ、参加者で意見交換したことも含め、視野を広げることができました。他にも、自主研究グループで府のベンチャー事業に応募し、自ら課題を設定し、チームとして大学運営を考える提案を行い、知事プレゼンを行ったことも貴重な経験です。

4月から精華町に戻りますが、2年間の経験やつながりを活かし広げながら、今後の仕事に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

## 地域連携・大学連携

### 和束町と連携協力包括協定を締結

平成29年12月に、府立大学と和束町は、連携・協力した取組みを一層推進するため、連携協力包括協定を締結しました。

府立大学と和束町は、これまで府大ACTR（地域貢献型特別研究）を活用した地域史資料の調査や、和束町をフィールドに体験を通して地域課題を学ぶ京都三大学教養教育共同化事業「宿泊研修」の実施など、様々な連携・協働を行ってきました。

協定の締結によって、より幅広い分野で和束町の地域課題に対応し、府南部地域のさらなる発展に寄与するとともに、学生が地域で学ぶ機会を拡充し、実践的

な人材育成を推進していきます。

現在は、文学部歴史学科の教員が町史編さん委員及び町史編集委員に就任し、和束町史編さん事業を連携して実施しているところですが、今後、学生も地域に入り歴史資料の調査等を行っていく予定です。

なお、町史編さん事業は、和束町の教育委員会等機能を担う相楽東部広域連合が実施主体となるため、本協定に併せて、府立大学と連合の間で連携協力に係る覚書を締結しました。



### 京都信用保証協会と連携協力包括協定を締結

平成30年3月に、府立大学と京都信用保証協会は、産学連携の推進により活力ある地域づくりを進めるため、連携協力包括協定を締結しました。

京都信用保証協会は、中小企業等が金融機関から事業資金を借入れる際に、公的な保証人となり借入れを容易にすることを目的とした公的機関です。創業支援、経営支援、再生支援、事業承継支援等の事業を行っています。

協定の締結によって、地域社会の発展及び地域経済の活性化に寄与するとともに、学生が地域社会で学ぶ機会を拡充し、実践的な人材育成を推進していきます。

今後、京都信用保証協会が主催する講演会に本学教員を講師派遣するとともに、本学の講義に協会職員を講師派遣いただき、インターンシップによる学生の受け入れ等で連携していく予定です。

### 京都三大学教養教育共同化「宿泊研修」(お茶の京都「和束町」にて)

京都三大学（府立大学・府立医科大学・工芸繊維大学）では、稲盛記念会館を拠点に教養教育共同化事業を行っていますが、その一環として、平成29年9月15日・16日の2日間、お茶の京都で注目を集めている京都府南部の和束町で「宿泊研修」を実施しました。地域の課題を実際に体感することをとおして、これからの学生生活や研究課題に役立てることや学生間交流を深めることを目的に取り組んでいるもので、今年は17名の学生が参加しました。



茶源郷ガイドの会のご案内で町内調査を実施

研修初日は、はじめに特産品づくりグループによるお茶づくし弁当をいただきながらグループの皆さんと交流。その後、2名の地元ガイドのご案内で、和束町内を徒歩で周回しました（茶畑景観展望→農家民宿訪問

→てん茶工場視察→町営実験農場での茶摘み体験）。夕食後には、堀忠雄和束町長からの講話の後、堀町長や役場職員の皆さんにも参加いただき、和束町の課題や振興策について意見交換を行いました。2日目は、前日にお世話になった方々や町職員の皆さんに出席いただくなかで、6グループに分かれ、和束町の振興策について提案発表を行いました。また、日本茶インストラクターの指導による「宇治茶ムリエ」養成講座を受講し、全員そろって認定を受けました。



堀忠雄町長に町の課題や取組を熱く語っていただきました。

地域おこしに取り組む方々との交流、和束町長や役場職員との懇談や提案発表など、三大学の学生にとって、これまで経験したことのない新鮮で充実した2日間となりました。

## ■地域創生COC+教育プログラム

### COC+カフェを開催しました！

平成29年9月29日（土）と30日（日）に、学生、「地（知）の案内人」、地域の皆さんとの交流の場として、「COC+カフェ」を開催しました。「地域創生フィールド演習」の実施と合わせて、つねよし百貨店（京丹後市）とFLAT+（舞鶴市）の2箇所を会場とさせていただきました。

日本一小さな百貨店であり、地域のコミュニティの場として親しまれているつねよし百貨店では、学生3名と地（知）の案内人の東田一馬さんに加え、常吉地区の皆さんにお越



日本一小さな百貨店～京丹後市・つねよし百貨店～

しいいただきました。農業の課題や地域のこれからのことなど、地域の皆さんから率直な意見が出されました。

また舞鶴市の平野屋商店街の空き店舗を活用したカフェ FLAT+では、演習に参加した学生（KOKIN2名・

株式会社DIYSTYLE 4名）が、演習で学んだことを発表しました。地（知）の案内人の大滝雄介さんと森本隆さんから自分の人生や経験、学生に期待することをお話いただいたほか、まちづくりに関わる地域の皆さんとの意見交換を行いました。またカフェの最中には、FMまいづるの生中継が入り、本学の男子学生がカフェの実況を中継しました。

カフェに参加した学生は、「日替わり店長や商品紹介動画の制作などいろいろな体験ができ、将来的にも地域に関わっていききたいと思った。」と感想を述べました。



日替わり店長のcafé&bar  
～舞鶴市・FLAT+～

\*本学では、地域で活躍する人材を育成するため、府中北部において農林漁業・六次産業など様々な分野で活躍する「地（知）の案内人」と協働して「地域創生COC+プログラム」を実施しています。その中で、「COC+カフェ」を開催し、学生、「地（知）の案内人」、地域の皆さんと交流し地域の未来を話し合います。

## ■4大学連携研究フォーラムの開催

平成29年11月14日（火）に、京都4大学連携研究フォーラムが開催されました。本フォーラムは、本学、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、京都薬科大学の4大学が連携し、平成23年度から毎年開催しているものです。今回は京都府立医科大学を会場として盛大に開催され、本学からは教職員13名と25名の学生が参加しました。

フォーラムでは、生命環境科学研究科の東あかね教授が、「循環器疾患の予防をめざした適塩和食の推進～基礎から応用実践まで～」をテーマに、昨年度の京都ヘルスサイエンス総合研究センター共同研究で健康の維持・増進グループとして取り組まれた研究成果を報告しました。



また、ポスターセッションが開催され、審査の結果、「アルキン部位を導入した新規キサントン色素の開発」を題目に出展された本学大学院生命環境科学研究科の平田瞭さんが、見事優秀賞を受賞しました。

来年度は本学でフォーラムの開催が予定されております。

### 【プログラム】

#### ○基調講演

「ウイルス感染症に対する治療・予防戦略;インフルエンザ対策を中心に」

#### ○4大学連携による共同研究成果発表

(1)『京都ヘルスサイエンス総合研究センターの共同研究』についての成果発表（4グループ）

- ①医療計測・診断研究
- ②発症・治癒機構解明
- ③健康の維持・増進
- ④創薬研究

(2)『公募型共同研究』についての成果発表

「竹齢の違いによるセルロースマイクロフィブリル傾角の変動と力学特性との関連性」

#### ○ポスターセッション

71点（府大12点、医大27点、工繊大18点、薬大14点）の出展があり、うち学生部門46点について、審査の結果、最優秀賞を1名、優秀賞を4名に授与

## 国際京都学

### 「京都府域の文化資源」をテーマとする共同研究会の活動

京都府立京都学・歴彩館では「京都府域の文化資源」をテーマに共同研究会を立ち上げ、その成果を府民のみならずへ発信していく活動が行われています。本学からも研究者が参加し、研究やその取りまとめにも携わっています。

平成27年度は「洛北」、平成28年度は「丹波」の文化資源をテーマに研究会を立ち上げ、活動を行ってきました。これらの研究成果は、順次、書籍として刊行され、その内容をお伝えするセミナーが開催されることになっています。

平成29年度には、新たに「南山城」の文化資源をテーマに研究会を立ち上げ、活動を行っています。



京都を学ぶセミナー洛北編 第8回  
(平成29年10月24日)

#### 南山城の文化資源共同研究会メンバー

氏名	所属	テーマ
上杉 和央	京都府立大学 文学部 准教授	南山城の歴史地理
香川 貴志	京都教育大学 社会科学部 教授	名勝地・笠置の観光をめぐる 環境変遷と将来展望
久保 中央	京都府立大学 生命環境科学研究科 准教授	南山城のお茶の遺伝的特質の 解明
佐伯 俊源	種智院大学 人文学部 教授	南山城の宗教的環境
島津 良子	京都文教大学 客員研究員	近世中・後期における緑茶製 法の創製と普及
竹門 康弘	京都大学防災研究所 水資源環境研究 センター 准教授	水辺生態系サービスの利用の 文化
山田 邦和	同志社女子大学 現代社会学部 教授	考古学的遺跡・遺物からみた 南山城の歴史

編集長：金田章裕（京都学・歴彩館 館長、京都大学名誉教授）  
副編集長：上杉和央（京都府立大学文学部 准教授）

### 京都学ラウンジミニ講座の開催

京都府立京都学・歴彩館主催、京都府立大学共催により、京都学に関するテーマでミニ講演を行い、講師との意見交換など相互交流を行う「京都学ラウンジミニ講座 京都府立大学共催特別企画」が開催されました。

- ◆会場 京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ
- ◆内容
  - ①平成29年12月21日（木）  
「京都市の街路樹 緑の道」  
京都府立大学学術研究員 京都市動物園職員 瀬古 祥子
  - ②平成30年1月11日（木）  
「京都市の庭 無鄰菴の庭 明治の新しい庭園の形」  
京都府立大学 准教授 福井 亘
  - ③平成30年1月18日（木）  
「The effects of the Meiji restoration and the study of Japanese  
archeology on the development of British archeology」  
京都府立大学共同研究員 ルーク・エジントンブラウン  
(通訳：教授 菱田 哲郎)
  - ④平成30年1月25日（木）  
「京都市の緑地 緑の量をみる」  
京都府立大学大学院博士前期課程1回生 山口 史絵

◆参加者 合計144名

講座は、京都をめぐる景観や庭園、古墳等、様々なテーマで御講演いただき、各回幅広い層の方々に御参加いただきました。



第2回



第3回

### 京都研究・日本研究の進展を目指して 海外若手研究者の受け入れ

京都府立京都学・歴彩館では、日本や京都を研究テーマとする海外若手研究者を「京都学研究員」として受け入れ、京都で研究する機会を提供する「海外若手研究員受入事業」を進めており、研究交流を通じて国際的ネットワークを構築し、研究成果を国内外に発信していくこととしています。

京都府立大学は、平成29年度に招聘された研究員を共同研究

員として受け入れ、研究活動のサポート支援を行っています。  
また、平成30年1月には、京都研究・日本研究の進展を目指して、京都府立大学から、優秀な若手研究者を京都学・歴彩館の研究員候補として推薦するため、「京都府立京都学・歴彩館と京都府立大学との研究員候補推薦及び受入に関する覚書」を締結しました。

### 京都府立大学文学部の移転

平成29年12月末に、京都府立大学文学部が、京都府立京都学・歴彩館の3・4階に移転しました。研究室、実習室、演習室等の施設が整備され、充実された新しい環境の下での教育・研究活動が始まっています。

## 和食文化研究

### 和食文化学会設立総会～食文化の創生をめざして～

平成30年2月19日、和食文化学会が設立され、基調講演及び国際シンポジウムが2日間にわたり開催されました。

2013年のユネスコ無形文化遺産登録以来、「和食」とその文化（以下「和食文化」）には全世界から注目が集まっています。しかし、「遺産」の語が示すように、和食文化の継承と発展には課題が残されており、和食文化を総体的に捉える学問分野の確立が急務となっています。

本学会は、和食文化の継承と発展に向けた知的基盤を構築すべく、既存の学問分野を超えた新たな学問分野～食文化～の創生を目指して、研究者、関連産業、行政、府民などの「当事者」によって設立されたもので、今後の和食文化研究のプラットフォームとなることが期待されます。

設立総会当日は、和食文化に造詣が深く、無形文化遺産登録に当たり、和食の登録を勧めるなど強力に後押しいただいたジャン＝ロベール・ピット氏（元パリ第4大学学長）が基調講演をつとめられ、同じく世界遺



- 産であるフランス人の美食文化との対比の中で「食文化」の保護、
- 伝承、発展の必要性についてお話をされました。

また、「和食文化の体験」として「京都知新 KYOTO CHISHIN

- 一口承：和食の智恵」の美しい4K映像上映、「日本人の主食・コメ」と題し東西の米の食べ比べなど五感に訴える体験企画も行われました。

- 2日目は「鉄の胃袋」の異名を持つ食文化研究の大家、石毛直道国立民族学博物館名誉教授と佐藤学会長との対談のほか、海外及び産官学の多彩なメンバーでのパネルディスカッションが行われました。「食」を核としたアグリツーリズムによる地方創生、山岳修験における薬食同源の伝統的食文化（※）など、これから「食文化」の価値を問い直す視点から示唆に富んだ意見が出されました。（※平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業「祭りと祈りの食文化再生事業」（文化庁）の成果の一部）



## 国際交流

### 中国南京林業大学と学術交流協定を締結

2017年11月6日、中国 南京林業大学にて学術交流協定の調印式が行われました。南京林業大学は1952年に設立され、22学部を有する総合大学です。全校生徒数は約30,000人余りで、大学院生と留学生は約4,500人であり、留学生の受け入れを積極的に行っています。

これまで、本学の古田教授と南京林業大学の張敏教授とは共同で、2005年度～2009年度に梱包用木質系材料に関する研究、2012～2015年度には竹資源の有効利用及び竹炭の高度利用に関する研究、2015年度には仮設

- 施設用床板兼運送用木質パレットに関する研究を行って来ました。こうした長きにわたる交流実績を踏まえ、今後さらに密度の高い学術交流を進めることを目的とし、今回の学術交流協定が締結されました。

- この協定締結を機に、教員の研究交流に加えて学生間の交流の進展も大いに期待されます。



### 京都4大学連携機構とイタリア学長会議との覚書を締結

京都4大学連携機構（京都工芸繊維大学・京都薬科大学・京都府立医科大学・本学）は、これまで4大学で共同研究などを進めてきましたが、この度、11月1日に京都工芸繊維大学で開催されたシンポジウム「Italy meets Asia: Scientific Venue in Kyoto 2017」において、イタリア学長会議（CRUI）と「教育研究活動促進のための協力」に関する覚書を締結しました。

今後、イタリアと日本では、両国の高等教育機関が科学技術分野の教育研究活動を促進するための協力体制を構築

- し、交流を活性化させるため、京都に拠点を設立し、京都工芸繊維大学を中心として取組を進めるとともに、この拠点を核として、学生や教職員の交流等を行う予定です。

- \*CRUIはイタリアの国立大学及び一部の私立大学、計77大学の学長による協会（うち39校が覚書締結）



## 各学部・研究科の取り組み

### 文学部

#### 日英翻訳の世界

欧米言語文化学科 教授 ラリー ウォーカー

この数年間、他大学の研究者と共に、学部生や大学院生の口頭発表、アカデミック・ライティングをいかに向上させることができるか、というテーマに取り組んでいる。特にアウトプットが苦手な学生諸君にとって将来役に立つような教育を目指している。

これと関連する形で、ゼミでは日英翻訳を課題として取り上げ、京都を舞台にした日本文学作品の英訳を講読している。時代と場所を考慮しながら、英語で意見交換をしたり部分訳を試みたりするのがその内容である。

「日英翻訳」というと「英作文」と誤解されることが多いが、実際には翻訳学の一部門である。私の場合は、主に日本文学の英訳出版史を研究対象としている。

その歴史は明治維新前に遡るが、特に第二次世界大戦後、アメリカのクノッフ社が組織的な翻訳を主導したことの意義は大きい。1990年代、テキサス大学に「ク

ノッフ・アーカイヴ」が設けられ、日本文学の英訳計画に関する貴重な書類が揃えられた。このアーカイヴを参照すると、当時どの作家のどの作品を英訳しようとしたか、翻訳者の人選はいかに進められたか、編集者と翻訳者のやりとり、そして関係者への影響、翻訳作業の実態、書籍のデザイン、宣伝方法、受容形態、書評などが総合的に浮かび上がってくる。当時の文化交流や出版業界の様子もありありと見えてくる。現在も日本文学の英訳は引き続き行われているが、時代に

応じて変化しているため、学生諸君と共にその「知的探検」を行うのが大きな喜びだ。グローバル化のさらなる進展と文化交流にとって、翻訳は重要な役割を持っているはずだ。私の研究はその考察に寄与することを目的としている。



### 公共政策学部

#### 社会的養護における「子どもの最善の利益」

福祉社会学科 山口 敬子 講師

社会的養護は、虐待を受けた子どもや、何らかの事情により実の親が育てられない子ども（要保護児童）を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行います。社会的養護には、大別すると、乳児院・児童養護施設等に代表される施設養護と、里親等に代表される家庭養護があります。

近年の社会的養護は、「子どもの最善の利益の保障」という観点から、家庭養護の優先性が公私において認められ、施策レベルで推進されようとしています。

例えば、2012年には、乳児院・児童養護施設に里親支援専門相談員が配置されるようになりました。これは、施設に地域の里親等を支援する拠点としての機能をもたせ、児童相談所や里親会等と連携して、里親委託の推進及び里親支援の充実を図ることを目的としています。さらに、2016年の児童福祉法改正では、

家庭養護優先の理念を規定し、実親による養育が困難であれば、特別養子縁組や里親による養育を推進することを明確にしました。

このように、家庭養護が施策レベルで推進されようとしています。里親委託推進に向けては様々な課題があります。里親委託をささえる体制づくりも重要な課題の一つです。

筆者は、子どもの委託前から委託終了後まで継続的にかかわることのできる支援体制をつくるためにどのようなことが必要なのか、研究を進めています。また、里親支援専門相談員を対象とした研修の実施や『里親支援ガイドブック』の発行など、里親委託を支援する取り組みも行っています。





## 生命環境科学研究科

### ゲノムを正しく読み取る仕組み

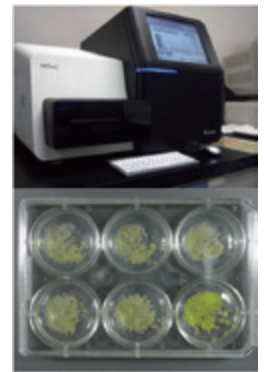
応用生命科学専攻 植物ゲノム情報学研究室  
佐藤 壮一郎 助教

「ゲノム」は、生き物それぞれが持つDNAの全塩基配列のことであり、そこには様々なタンパク質を作るための遺伝子情報などがA、C、G、Tの4つの文字で書かれています。その文字数は膨大であり、私たち人間で約30億、私の研究材料である植物のシロイヌナズナでも約1億3千万文字もあります。広辞苑の収録文字数が約1400万字ですから、いかに、生き物の体が膨大な情報を元に作られているかがわかります。このような巨大な文字列中には、多くの遺伝子の情報が含まれていますが、これらは、必ず「プロモーター」と呼ばれる短い文字列の後に書き込まれています。プロモーターとは「遺伝子を読みはじめる為の目印」です。つまり生き物は、ゲノムの中からプロモーターの後に続く文字列を遺伝子として認識し、その情報からタンパク質を作っているわけです。

現在では、人や農作物など様々な生き物のゲノムが、次世代シーケンサー等のDNA解読装置を使って調べられていますが、ゲノム全体が解読されると、同時に不

思議なことも見えてきます。先ほどの、「遺伝子を読みはじめる目印」となるプロモーターですが、これが、なぜかゲノム中の至るところに散在しているのです。その場所には、遺伝子が全く無い領域や、遺伝子の文字列内なども含まれます。もし、これらのプロモーターが「目印」となってしまうと、遺伝子情報を反映しない、得体の知れないタンパク質が作られることになってしまいます。しかし、実際にゲノムから読み出される情報をRNA-Seqと呼ばれる方法で調べてみると、不思議なことに、適切なプロモーターだけが利用され、遺伝子情報が正しく読み取られていることがわかります。

私たちは、このような適切な読み分けがどのような仕組みで行われているのか？そして、その仕組みは生き物の進化の過程で、どのようにして作り出されてきたのかといった謎について取り組んでいます。



次世代シーケンサー(上)とシロイヌナズナ培養細胞(下)

## 生命環境科学研究科

### 脱炭素社会をめざしたフィールド研究

環境科学専攻 環境心理行動学研究室  
松原 斎樹 教授

私の研究室では、心理学的な被験者実験と住宅居住者の住まい方調査が主要な研究テーマですが、今年度のACTRでは、南丹市美山でフィールド研究を行っています。学生の自主活動である美山木匠塾は1999年に開始されていますが、その後、本学の「環境共生教育演習I」「環境共生フィールド演習I」のプログラムになりました。塾長は、戸田都生男氏（現ものづくり大学）から、羽原康成氏にバトンタッチされて今日に至っています。基本活動は、現地のニーズに応えた木工作品の制作で、現地調査、デザイン案（図面・模型）の製作、現地でのプレゼン、デザイン案の修正、製作、納品、現地での引渡しという流れです。引き渡しは、多くの住民が帰省をして参加する運動会・感謝祭の日で、学生達が作品の主旨を説明します（写真）。作品のレベルも高く、「木を活かす学生課題コンペ」で、昨年度の「くむくむ」（三角形のジャングルジム）は林野庁長官賞を、また今年の「あつまるま」（ミニ茶室）は、学生活動大賞を受賞しました。今年度は、地域を紹介するリーフ

レットも作成しました。作成のプロセスでは、10件ほどのお宅にホームステイして取材をしました。リーフレットは、現在、英、中、韓の3カ国語版を作成中です。これらの活動は、公立大学学生ネットワークLINKL Toposと本学のSDミーティングで学生が報告しました。

市営バスは一日に1往復、コンビニも大きなレストランもホテルもない約90世帯の集落で、若い学生達が木工や調査活動をするのが、地元のみなさんの元気につながっています。「『炭素固定化のための木材利用』という観点を、いかにポジティブに広めていくか」というテーマを始めるきっかけは、学生達から楽しく活動して、大きなエネルギーを発揮する姿を見たことです。「禁欲的に研究しなさい」と言うよりも、「楽しく頑張ろうね」という指導の方がはるかに効果的であることを実感している毎日です。教員が学生に教えられることも少なくないと感じています。



受賞情報

文学部

歴史学科 岡本 隆司 教授

「アジア・太平洋賞特別賞」、「櫻山純三賞」受賞

「中国の誕生 東アジアの近代外交と国家形成」(名古屋大学出版会発行)が「第29回アジア・太平洋賞特別賞」(主催:毎日新聞社、一般社団法人アジア調査会)、「平成29年度・第12回櫻山純三賞」(主催:公益財団法人櫻山奨学財団)を受賞しました。



提供:(一社)アジア調査会

歴史学科4回生 竹内 祥一朗さん

文化的景観研究集会「ベストポスター賞(学術研究部門)」受賞

第9回文化的景観研究集会(主催:奈良文化財研究所)において、「ぎょぎょ!と大和郡山~金魚が泳ぐ歴史景観~」の発表により、「ベストポスター賞(学術研究部門(若手研究者))」を受賞しました。

公共政策学部

公共政策学科 窪田ゼミ

京都から発信する政策研究交流大会

「大学コンソーシアム京都理事長賞」受賞

第13回京都から発信する政策研究交流大会(主催:公益財団法人大学コンソーシアム京都)において、窪田ゼミ(2回生の龍ヶ江悠太さん、石昊さん、辻有沙さん、宮谷和輝さん、森田直希さん、山田茉桜さん)が、「『ヤングレビュー』による自治体政策形成過程の改善」の発表により、「大学コンソーシアム京都理事長賞」を受賞しました。

公共政策学科 玉井ゼミ

京都から発信する政策研究交流大会「優秀賞」受賞

第13回京都から発信する政策研究交流大会(主催:公益財団法人大学コンソーシアム京都)において、玉井ゼミ(2回生の石田実穂さん、奥園成美さん、亀谷早季子さん、木下渚さん、澤井万由子さん、勝呂賢義さん、高岡樹里さん、竹本寧々さん、土田望美さん、中塚貴勝さん、中村優里さん、松本美波さん)が、「公共施設活用のポテンシャル~南丹市を事例として~」の発表により、「優秀賞」を受賞しました。

生命環境学部

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻

丸山 美帆子 特任講師(生体物質化学研究室) 他1名共同受賞

日本結晶成長学会「論文賞」受賞

日本結晶成長学会において、「レーザーアブレーションによる結晶成長モードの能動制御と大型タンパク質結晶作製への応用」の発表により、「第34回論文賞」を受賞しました。

博士前期課程1回生 鳥居 彩芽さん(機能分子合成化学研究室)

有機合成若手セミナー「ポスター賞」、有機π電子系シンポジウム「ポスター賞」受賞

第37回有機合成若手セミナー(主催:有機合成化学協会関西支部、日本薬学会近畿支部)において「ホウ素含有キサンテン色素の合成と物性」の発表により、第11回有機π電子系シンポジウムにおいて「B,O,S含有キサンテン型蛍光色素の開発」の発表により、「ポスター賞」を受賞しました。

生命分子化学科4回生 清瀧 康太郎さん(機能分子合成化学研究室)

日本薬学会近畿支部総会・大会「ポスター賞」受賞

第67回日本薬学会近畿支部総会・大会において、「硫黄原子を組み込んだPush-Pull型蛍光色素の開発」の発表により、「ポスター賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 山上 紅里さん(機能分子合成化学研究室)

複素環化学討論会「Heterocycles賞(学生講演賞)」受賞

第47回複素環化学討論会(日本薬学会、日本化学会、日本農芸化学会、有機合成化学協会共催)において、「新規V字型キサンテン色素の合成と構造-物性相関」の発表により、「Heterocycles賞(学生講演賞)」を受賞しました。

博士前期課程2回生 平田 瞭さん(機能分子合成化学研究室)

4大学連携研究フォーラム「優秀賞」受賞

第7回4大学連携研究フォーラムにおいて、「アルキン部位を導入した新規キサンテン色素の開発」の発表により、「優秀賞」を受賞しました。

博士後期課程3回生 畑澤 幸乃さん(分子栄養学研究室)

食保健学科 4回生 矢野 志実さん(栄養学研究室)

日本栄養・食糧学会近畿支部大会「若手研究者奨励賞」受賞

第56回日本栄養・食糧学会近畿支部大会において、畑澤幸乃さんが「運動時、転写調節因子PGC1αは骨格筋アミノ酸代謝を調節する」の発表により、矢野志実さんが「低タンパク食摂取時における血漿還元型アルブミン比率の低下は食事性シスチンによって抑制される」の発表により、「若手研究者奨励賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 吉村 弘太さん(栄養科学研究室)

食保健学科4回生 北島 安子さん(食事学研究室)

日本栄養改善学会近畿支部学術総会「若手研究者表彰」受賞

第16回日本栄養改善学会近畿支部学術総会において、吉村弘太さんが「学童保育のおやつに対する指導員と保護者の認識と課題の検討」の発表により、北島安子さんが「児童の調理行動に関する因子」の発表により、「若手研究者表彰」を受賞しました。

博士前期課程2回生 川原 佑貴さん(機能分子設計化学研究室)

応用物理学会フォトニクス分科会フォトニクス研究会「優秀ポスター発表賞」受賞

応用物理学会フォトニクス分科会第2回フォトニクス研究会において、「基板上における表面プラズモン増強加熱とその応用—DNA伸長を利用した極微量病原体の迅速検出—」の発表により、「優秀ポスター発表賞」を受賞しました。

博士前期課程1回生 河田 祐樹さん(動物機能学研究室)

Hindgut Club Japanシンポジウム「奨励賞」受賞

第23回Hindgut Club Japanシンポジウムにおいて、「糞便の保存法及び細菌DNA抽出法の違いが16SrRNAメタゲノム解析の結果に与える影響」の発表により、「奨励賞」を受賞しました。

食保健学科4回生 竹田 森里さん(食事学研究室)

// 田村 葉月さん( // )

日本調理科学会近畿支部研究発表会「若手優秀発表賞」受賞

日本調理科学会近畿支部第43回研究発表会において、竹田森里さんが「規格外小豆の機能性と有効利用について」の発表により、田村葉月さんが「エビイモの生長・肥大に伴うデンプンの変化」の発表により、「若手優秀発表賞」を受賞しました。

生命分子化学科4回生 村下 七海さん

日本土壌肥料学会関西支部講演会「優秀発表賞」受賞

2017年度日本土壌肥料学会関西支部講演会において、「京都府内の森林傾斜地における土壌浸食に及ぼすシカの影響」の発表により、「優秀発表賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 山本 格さん(応用昆虫学研究室)

関西昆虫学研究会「若手発表賞」受賞

関西昆虫学研究会2017年度大会において、「東アジアにおけるホソガ科蛾類の生物地理:ミトコンドリアと核遺伝子間での比較」の発表により、「若手発表賞」を受賞しました。

博士後期課程3回生 畑澤 幸乃さん(分子栄養学研究室)

日本学術振興会「育志賞」受賞

「運動・筋萎縮における骨格筋代謝制御の分子機序解明」の研究により、第8回(平成29年度)日本学術振興会育志賞を受賞しました。

生命環境学部

生命環境科学研究科 環境科学専攻

河西 立雄 准教授(建築意匠学研究室)

「2017年度グッドデザイン賞」受賞

「住宅のエクステンション「ゲート/バーン/ヤード」」の研究により、「2017年度グッドデザイン賞」(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

環境デザイン学科 中村 優美さん 他17名

木を活かす学生課題コンペティション「林野庁長官賞」受賞

平成28年度林野庁補助事業「木を活かす学生課題コンペティション」において、受賞当時3回生の淡路谷直季さん、鍵井太貴さん、谷口悠貴さん、平松優生さん、向井亜美さん、2回生の井上あいさん、田村匠さん、仲田早穂さん、中村優美さん、林咲予子さん、松本哲弥さん、1回生の梶原薫さん、岸田昴大さん、白石晃さん、手島悠登さん、永井勇斗さん、長岡真希さん、宮奥森伍さんが、作品「くむくむ」により、「林野庁長官賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 大野 未奈さん (生物材料物性学研究室)

材料WEEK材料シンポジウム若手学生研究発表会  
「優秀講演賞 ベストプレゼンテーション賞」受賞

第3回材料WEEK材料シンポジウム若手学生研究発表会 (主催: 公益社団法人日本材料学会) において、「木材の乾燥割れの機構解明に向けた基礎的研究 — 乾燥割れの形態に及ぼす乾燥条件の影響 —」の発表により、「優秀講演賞 ベストプレゼンテーション賞」を受賞しました。

博士前期課程1回生 岸 和実さん (生物材料物性学研究室)

公益社団法人日本木材加工技術協会第35回年次大会  
「優秀ポスター賞」受賞

公益社団法人日本木材加工技術協会第35回年次大会において、「原木段階における強度等級区分に向けた基礎的研究」の発表により、「優秀ポスター賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 溝口 晃平さん (森林資源循環学研究室)

リグニン討論会「学生ポスター賞」受賞

第62回リグニン討論会において、「テトラフチルアンモニウムヒドロキシドを用いたバニリン生産における生成物の分離精製法の開発」の発表により、「学生ポスター賞」を受賞しました。

環境デザイン学科 4回生 谷口 悠貴さん (住生活学研究室)

// 3回生 藤原 悠さん (建築意匠学研究室)  
// 松本 哲弥さん (生活文化・生活美学研究室)

JPM「夢の賃貸住宅」学生コンテスト「グランプリ」受賞

第7回JPM「夢の賃貸住宅」学生コンテスト (主催: 公益財団法人日本賃貸住宅管理協会) において、作品「[雲]を介するコミュニティ」が、「グランプリ」を受賞しました。

博士前期課程1回生 米澤 政人さん (建築意匠学研究室)

Woodyコンテスト「佳作」受賞

第1回Woodyコンテスト (主催: 京都府) 木造住宅部門 (学生部門) において、作品「スギ・ヒノキの特性を活かした木造住宅の提案「木と住み繋ぐ家」」が、「佳作」を受賞しました。

環境デザイン学科3回生 井上 あいさん (建築意匠学研究室)

// 北岡 佳奈さん ( // )  
// 西澤 美咲さん ( // )  
// 藤原 悠さん ( // )

「第4回宇宙建築賞」入賞

第4回宇宙建築賞 (主催: 宇宙建築コンテスト実行委員会) において、作品「Terrariums —n個の地球—」が入賞しました。

環境デザイン学科3回生 井上 あいさん (建築意匠学研究室)

バリアレスシティアワード&コンペ2017「審査員賞」受賞

バリアレスシティアワード&コンペ2017 (主催: バリアレスシティアワード実行委員会) において、作品「京都まちパーク —街中に現れる小さな公園—」が、「審査員賞」を受賞しました。

## 退職教員からのメッセージ

### さらば、いとしの府大

文学部 日本・中国文学科 赤瀬 信吾

幼いころ、ぐずると母がよく言った、「ふうのき谷からカワウソの来るとよ」。

戦後にバス道が切りひらかれて、ふうのき谷は長いあいだ夢の地となっていた。ふうのきという樹が現実にあることを着任して初めて知った。夏には緑、秋うす茶色。三十三年間、南門をくぐるたびに心がおど

- た。落ち葉をふんで、子どものようにたわむれた記憶もある。
- 府大では、何よりも学生に恵まれた。けわしい研究者への道を選んでもくれた学生も少なくない。難解と聞いてよいかも知れない授業に耳をかたむけ、努力してくれた君たちに乾杯。そして助力を惜みず、ともに歩んでくれた同僚たちに感謝。とつぜん視力を失ったのちにも歩んでくれたのは、同僚たち学生たちのおかげに他ならない。多言を要しない幸福だった日々、美しい木かげから離陸して、さようならを告げる。明日また晴れるか晴れないか、そんなことは知らない。

### 府大一筋36年

公共政策学部 公共政策学科 小沢 修司

1982年4月に当時の京都府立大学女子短期大学部生活経済科に専任講師として赴任してから36年間京都府立大学でお世話になりました。短大の閉学から福祉社会学部の設立、次には福祉社会学部から公共政策学部への「名称変更」による移行、節目節目には裏方としてまた表に立って大学の改革に関わってきました。なかでも思い出すのは福祉社会学部の設置業務。文部科学省への申請書類を連日1時、2時まで作業をし、当時

- 住んでいた大津市唐崎まで山中越えてタクシーを走らせて帰宅し早起きでは子どもたちの食事を作って出勤。体力も知力もありました。よくやったものです。今は昔、一緒に「闘った」職員のK女史、A氏とはいつになっても「戦友」のように話ができます。
- 他の大学や研究機関で働いたことがないというのは研究者としては経験が浅いかもしれませんが、府大一筋36年もいいものです。ありがとうございました。



### 京都府立大学での14年を振り返って

生命環境科学研究所 応用生命科学専攻 佐上 郁子

この春で、私が京都府立大学に赴任してから、14年が過ぎようとしています。その間、大学生から33年過ごした仙台に家族3人を残しての単身赴任でした。院生の時代から考えますと、なんと約40年も「生命科学」の分野の研究に携わってきたこととなります。その間に、生命科学は、生体から単離したタンパク質や遺伝子の研究から遺伝子工学、遺伝子改変に、そして個々の分子レベルの機能の解析から細胞・組織・個体レベルでの生命システム構築の解明へと急速に進展しました。その流れの中で、本学で農学研究所・農学部時代の「生体高分子」から現在の「細胞

- 高分子化学」研究室という生命科学なら何を研究課題にしても良い研究室を担当し、自分の面白いと思うことを研究課題にやってこれたことは幸運でした。一方で、知りたいことを明らかにすることの難しさも痛感しました。唯一、学生さん達に「生命システムは、どこを切り取っても巧妙で、調和がとれていて、美しい、そして面白い」ということを伝えられていたら嬉しく思います。
- 本学での研究・教育活動では、多くの人と出会って、たくさんの方を学びました。特に、学生・院生の皆さんとの楽しい思い出は数多く、忘れがたいものとなりました。ご支援くださった教職員の方々はじめ、皆様に深く感謝いたします。

## 「不易と流行」

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 三野 眞由

京都府立大学の一員に迎え入れていただきより18年、このたび定年を迎えられたのはひとえに皆様のご厚情によるものと深く感謝しております。私がいた18年の間にも環境は大きく変わり、大学はその形を変えてきました。その可否を論じはしませんが、教育と研究を行う大学には常に守るべき「不易」があり、同時に環境変化に即応できる「流行」をも

- 身につけることが大切であることを改めて強く感じています。「流行」ばかりでは世の中に迎合しすぎて学問の本質につながる「不易」がおろそかになり、「不易」ばかりでは大学は単なる象牙の塔に化してしまいます。
- 両者のバランスをどううまくとるかが大学の教育と研究を考える上に極めて大切です。思えば、何十年前にも私の恩師が同じ議論をしていました。「不易と流行」は大学にとり根本の取り組み課題なのでしょう。皆様の知恵と力でこの課題に対処いただき、京都府立大学を更に発展させて頂くことを強く願っております。

## 府大の34年

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 春山 洋一

31才で府大にお世話になって34年が経ちます。私が着任したときは旧一号館の床は板張り、その3階に応用物理学講座の研究室がありました。昔の小学校のような暖かみのある心安らく空間で個人的には好みでしたが、物理実験をするには振動が伝わりすぎて不向きでした。

所属は教養の自然科学グループで、学部共通と呼ばれ、学科はありませんでした。当時は大学の大綱化=教養の廃止の方向が打ち出され、新学科を作りたいという希望がありました。応用物理学講座が新学科設立の旗振り役を務めることになり、私も原子物理学の研究と並行しながら、微量元素分析を通して環境問題に取り組み、実績作りをしてきました。

- 1997年には念願の環境情報学科を立ち上げることができました。家政学の範疇には入っていましたが、府大としては初めての理工系の内容をもった学科でした。
- 学科の教員は、従来の教養の講義に加え、幅広い専門の講義を少人数で担わなければならず、過重な負担が課せられましたが、熱意と情熱をもって教育研究に取り組んできたと思います。学科設立から20年以上が経ち、多くの有為な人材を輩出することができたのではと密かに自負しているところです。
- 本学科、学部、大学の一層の発展を願って最後の挨拶に致します。ありがとうございました。



## 府大でデザイン。

生命環境科学研究科 環境科学専攻 塚本 カナエ

短い間でしたが、お世話になりました。

緑の多い植物園みたいな学校だなあ...、と言うのが当初の感想です。

こちらで学生に色々な言葉でデザインの考え方を説明しているつもりですが、学生の発言を聞いてると何かの拍子に「まだ理解していない」と気づく場面が何度かありました。また「形を考えて」と言う「黄金比で...」とやりだした学生がいました。根底の考え方を作ることができていないのだと気づいたので、現在のデザインの流れを実際に体感して

- もらうため、昨夏に私が関係するドイツのiF賞幹部に本学にお越しいただき、他大学の教員・学生にもお越し頂き、稲盛記念館にてデザインの話をしていただきました。本学の学生には良いショックとなったようでした。また工場見学にも行きました。
- 短い期間でなし得たことは多くなかったですが、デザインを職業としてやっていこうという学生が現れたことは嬉しいことで、何年後に活躍している姿をどこかで拝見できることを願ってやみません。(写真は研究の一環として行っている二次曲線説明器のリニューアル版。先日東京ギフトショーにてお披露目)



長年の間、学生の教育や研究などの発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

## ニューフェース

■平成 29 年 10 月着任の教員紹介■

文学部 欧米言語文化学科

講師 後藤 篤  
(ごとう あつし)

<主な研究領域>  
現代アメリカ文学・文化学



- ロシア出身の亡命作家ウラジーミル・ナボコフのアメリカ時代の創作を手がかりに、20世紀以降の合衆国の言語文化を動態論的視座から研究しています。グローバリズムの疲弊が叫ばれる今日の国際情勢にとり、多言語を駆使して従来の国民文学の概念に揺さぶりをかける越境作家の想像力はいかなる意味を持ちうるのか。露英仏の三言語を操る言葉の魔術師との呼び声高いナボコフの作品を冷戦期アメリカの政治社会的文脈において読み直すなかで、この問いの答を探していきたいと考えています。

公共政策学部 公共政策学科

准教授 佐藤 千恵  
(さとう ちえ)

<主な研究領域>  
民法

- 民法は財産法と家族法に大別されますが、私は主に家族法を研究対象としています。これまでは、子に関する問題、そのなかでも特に解決困難といわれる父母間の子の奪い合いを研究テーマとして取り組んでまいりました。現在は、父母間の婚姻破綻時における子をめぐる争いの予防に焦点を当て、ドイツやイギリスなど諸外国の取り組みにも目を向けつつ、研究を進めております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

生命環境科学研究科

応用生命科学専攻  
助教 今吉 亜由美  
(いまよし あゆみ)

<主な研究領域>  
精密有機合成化学、材料科学



- 有機合成化学は、分子レベルで物質を扱う究極のものづくりの学問です。私は精密有機合成化学の技術を基盤とし、新しい概念を発信できるような反応開発と、合成した分子の性質を最大限に引き出した新規材料の創出を目指し、研究を行っています。アイデアの実現に挑戦し続けるワクワク感を日々味わいながら、常に実験と真摯に向き合い、よく考え仮説を立て続け、学生さんたちとの対話を通して新奇なものづくりに取り組んでいます。